

2021年度上期 関西・以西ブロック会議報告

- (1) 9月1日（水）14：00～に zoom を利用して関西・以西ブロック会議が開催されました。21 産地から 40 名、消費者幹 7 名、パルシステム関係者 13 名、合計 60 名の参加でした。
- (2) 王隠堂副ブロック長（大紀コープファーム）の進行により開始され、澤村ブロック長（水俣不知火ネットワーク）の開会あいさつがありました。「パルシステムの会合に頻繁に参加するようになったが、これほど産直について議論する生協は他に知らない。物の売り買いだけでない、それぞれの立場で何ができるかを考える機会にしたい」と話されました。
- (3) 大津代表幹事（無茶々園）より 2021 年度生消協活動方針と今年の取り組み状況について報告されました。大津代表からは「共感が重要。共感して関係者が一緒になって進めていくことがパルシステムの産直の強みだ」と話されました。
- (4) 次に、パルシステム連合会洪澤専務理事、産直事業本部島田本部長、株式会社パルミート網野代表取締役専務より 2021 年度第 1 四半期まとめとこの間の取り組み報告がありました。洪澤専務からは「交流についてオンラインとリアルを組み合わせたハイブリッドな方法についても生消協で検討していただきたい」との要望が出されました。
- (5) 報告後、「コロナ後、パルシステムと一緒にやりたいこと」をテーマにグループ生消協役員の進行により、グループディスカッションが行われました。終了後の各グループの共有として、代表者による発表があり、生産者と消費者との交流をオンラインでも頻繁に開催したい、産地の様子を HP や SNS 等で自ら情報発信する、パルシステムの産直産地の生産者同士がつながって商品開発など提案する、組合員の声を生産者に直接届ける仕組みの検討を、などの意見が出されました。総じて、参加産地が消費者との交流機会を強く求めていることがわかりました。
- (6) 最後に消費者幹事の渡部さと子副代表幹事（パルシステム神奈川）より、「生協は、生産者と消費者のそれぞれの立場を超えて、一緒になって行動できることが強み。生協に関わるメンバーがお互いに対して何に貢献できるか、が非常に大事だと考えている。コロナ禍で直接会えない状況にあるが、今は我慢して、できることを進めていきたい」と感想とまとめが行われ、閉会となりました。



以上